

# 四半期報告書

(第32期第1四半期)

自 平成28年3月1日

至 平成28年5月31日

株式会社 **メディカル一光**

---

# 四 半 期 報 告 書

---

- 1 本書は四半期報告書を金融商品取引法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織(EDINET)を使用し提出したデータに目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。
- 2 本書には、上記の方法により提出した四半期報告書に添付された四半期レビュー報告書を末尾に綴じ込んでおります。

**株式会社メディカルー光**

# 目 次

	頁
【表紙】 .....	1
第一部 【企業情報】 .....	2
第1 【企業の概況】 .....	2
1 【主要な経営指標等の推移】 .....	2
2 【事業の内容】 .....	2
第2 【事業の状況】 .....	3
1 【事業等のリスク】 .....	3
2 【経営上の重要な契約等】 .....	3
3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】 .....	3
第3 【提出会社の状況】 .....	4
1 【株式等の状況】 .....	4
2 【役員の状況】 .....	5
第4 【経理の状況】 .....	6
1 【四半期連結財務諸表】 .....	7
2 【その他】 .....	14
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】 .....	15

**【表紙】**

**【提出書類】** 四半期報告書

**【根拠条文】** 金融商品取引法第24条の4の7第1項

**【提出先】** 東海財務局長

**【提出日】** 平成28年7月14日

**【四半期会計期間】** 第32期第1四半期（自平成28年3月1日 至平成28年5月31日）

**【会社名】** 株式会社メディカルー光

**【英訳名】** Medical Ikkou Co., Ltd.

**【代表者の役職氏名】** 代表取締役社長 南野 利久

**【本店の所在の場所】** 三重県津市西丸之内36番25号

**【電話番号】** 059-226-1193（代表）

**【事務連絡者氏名】** 代表取締役専務取締役管理本部長 櫻井 利治

**【最寄りの連絡場所】** 三重県津市西丸之内36番25号

**【電話番号】** 059-226-1193（代表）

**【事務連絡者氏名】** 代表取締役専務取締役管理本部長 櫻井 利治

**【縦覧に供する場所】** 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第31期 第1四半期 連結累計期間	第32期 第1四半期 連結累計期間	第31期
会計期間	自 平成27年3月1日 至 平成27年5月31日	自 平成28年3月1日 至 平成28年5月31日	自 平成27年3月1日 至 平成28年2月29日
売上高 (千円)	7,037,733	7,574,589	29,305,786
経常利益 (千円)	373,987	241,452	1,458,162
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (千円)	284,945	319,232	910,584
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	272,799	165,887	935,161
純資産額 (千円)	6,649,562	7,346,560	7,249,651
総資産額 (千円)	23,030,939	25,213,577	24,796,533
1株当たり四半期(当期) 純利益金額 (円)	148.71	166.60	475.23
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	—	—	—
自己資本比率 (%)	28.9	29.1	29.2

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 売上高には、消費税等は含まれておりません。
- 3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
- 4 「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日)等を適用し、当第1四半期連結累計期間より、「四半期(当期)純利益」を「親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益」としております。

#### 2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社及び当社の関係会社が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社の異動は、次のとおりであります。

(調剤薬局事業)

連結子会社でありました有限会社ボンボンは、平成28年3月1日付で、連結子会社である株式会社メディケアサポートを存続会社として合併いたしました。

(ヘルスケア事業)

連結子会社でありました株式会社YMCは、平成28年3月1日付で、連結子会社である株式会社ヘルスケア・キャピタルを存続会社として合併いたしました。

(医薬品卸事業)

当社は、平成28年4月1日付で大豊薬品株式会社の全株式を取得し子会社としております。

この結果、平成28年5月31日現在では、当社グループは、当社、連結子会社13社及びその他の関係会社1社により構成されております。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。

また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ(当社及び連結子会社)が判断したものであります。

#### (1) 業績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国の経済情勢は、企業業績および雇用情勢に改善傾向がみられ、全体として緩やかな回復基調にあります。一方で中国をはじめとする新興国経済の減速懸念や、為替の変動など、景気の先行きは依然として不透明な状況が続いております。

調剤薬局事業におきましては、平成28年4月に実施されました調剤報酬改定で、「かかりつけ薬剤師・薬局」の評価が導入されるなど多様化するニーズへの対応が求められており、当社グループでは患者様の視点にたった「かかりつけ薬剤師・薬局」を目指し、人材教育・店舗作りに取り組んでおります。また、ヘルスケア事業におきましては、介護サービスの需要は一層拡大していくものの、これを支える人材の確保・育成が重要な課題となっております。

このような中、当社グループは超高齢社会の進展に伴い医療・介護サービスの需要は拡大するものと捉え、安全性を最優先としつつ事業規模の拡大および収益力の強化に取り組んできました。

その結果、当第1四半期連結累計期間の当社グループの業績は、売上高7,574百万円(前年同期比7.6%増)、営業利益278百万円(前年同期比14.5%減)、経常利益241百万円(前年同期比35.4%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益319百万円(前年同期比12.0%増)となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

#### ① 調剤薬局事業

調剤薬局事業におきましては、既存店の売上が伸長したことに加え、前年度に新規出店およびM&Aにより加わった店舗が寄与し、増収となりましたが、平成28年4月に実施された調剤報酬改定および薬価改定の影響等により、営業利益は減少となりました。この結果、売上高は5,890百万円(前年同期比5.2%増)、営業利益370百万円(前年同期比16.4%減)となりました。

#### ② ヘルスケア事業

ヘルスケア事業におきましては、有料老人ホームの入居者確保と、前期に新規開設した施設が寄与し売上は堅調に推移しました。この結果、売上高1,121百万円(前年同期比6.2%増)、営業利益52百万円(前年同期比66.7%増)となりました。

#### ③ 医薬品卸事業

医薬品卸事業におきましては、ジェネリック医薬品使用促進策に沿って市場が拡大する中、三重県、岐阜県、滋賀県を中心に積極的な営業活動を行いました。また、平成28年4月に愛知県を中心にジェネリック医薬品を販売する大豊薬品株式会社を子会社化し、営業エリアの拡大を図りました。この結果、売上高533百万円(前年同期比51.9%増)、営業利益23百万円(前年同期比23.5%増)となりました。(内部売上を含む売上高は687百万円となり、前年同期比で42.4%増加しました。)

#### ④ 不動産事業

不動産事業におきましては、賃貸不動産からの収入によって、売上高29百万円(前年同期比2.4%増)、営業利益13百万円(前年同期比7.0%減)となりました。

また、投資事業におきましては、効率的な運用成績となっております。

#### (2) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

#### (3) 研究開発活動

該当事項はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### ① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	6,000,000
計	6,000,000

###### ② 【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成28年5月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成28年7月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	2,035,000	2,035,000	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数 100株
計	2,035,000	2,035,000	—	—

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成28年3月1日～ 平成28年5月31日	—	2,035,000	—	917,000	—	837,050

##### (6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成28年2月29日)に基づく株主名簿による記載をしております。

① 【発行済株式】

平成28年2月29日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 118,900	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 1,916,000	19,160	—
単元未満株式	普通株式 100	—	—
発行済株式総数	2,035,000	—	—
総株主の議決権	—	19,160	—

② 【自己株式等】

平成28年2月29日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
株式会社メディカルー光	三重県津市西丸之内36番25号	118,900	—	118,900	5.84
計	—	118,900	—	118,900	5.84

2 【役員の状況】

該当事項はありません。



## 第4 【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間(平成28年3月1日から平成28年5月31日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成28年3月1日から平成28年5月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

## 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年2月29日)	当第1四半期連結会計期間 (平成28年5月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	5,808,580	6,783,154
売掛金	3,740,579	3,565,823
商品	1,043,428	1,046,710
その他	661,622	616,668
貸倒引当金	△800	△800
流動資産合計	11,253,411	12,011,557
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	6,301,868	6,269,893
土地	2,819,411	2,932,821
その他（純額）	405,453	362,054
有形固定資産合計	9,526,733	9,564,769
無形固定資産		
のれん	887,712	902,444
その他	280,552	267,101
無形固定資産合計	1,168,264	1,169,546
投資その他の資産		
投資有価証券	1,651,017	1,165,531
敷金及び保証金	591,964	637,138
その他	605,141	665,033
投資その他の資産合計	2,848,123	2,467,703
固定資産合計	13,543,122	13,202,019
資産合計	24,796,533	25,213,577
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形	12,011	27,337
買掛金	3,989,769	3,934,125
1年内返済予定の長期借入金	3,331,363	3,416,309
未払法人税等	434,249	257,866
賞与引当金	187,828	329,153
その他	850,351	874,074
流動負債合計	8,805,573	8,838,867
固定負債		
長期借入金	7,863,032	8,168,820
退職給付に係る負債	425,040	439,447
その他	453,235	419,881
固定負債合計	8,741,308	9,028,148
負債合計	17,546,882	17,867,016

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年2月29日)	当第1四半期連結会計期間 (平成28年5月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	917,000	917,000
資本剰余金	837,050	837,050
利益剰余金	5,461,534	5,711,789
自己株式	△199,317	△199,317
株主資本合計	7,016,267	7,266,521
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	234,313	80,735
退職給付に係る調整累計額	△929	△696
その他の包括利益累計額合計	233,384	80,039
純資産合計	7,249,651	7,346,560
負債純資産合計	24,796,533	25,213,577

## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成27年3月1日 至平成27年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成28年3月1日 至平成28年5月31日)
売上高	7,037,733	7,574,589
売上原価	6,256,330	6,796,825
売上総利益	781,402	777,763
販売費及び一般管理費	456,145	499,633
営業利益	325,257	278,130
営業外収益		
受取利息	105	99
受取配当金	2,110	328
権利金収入	71,296	—
業務受託料	967	276
助成金収入	1,780	3,533
その他	4,178	5,303
営業外収益合計	80,438	9,541
営業外費用		
支払利息	23,732	22,313
売買有価証券運用損	—	18,784
その他	7,976	5,122
営業外費用合計	31,708	46,219
経常利益	373,987	241,452
特別利益		
固定資産売却益	158	—
投資有価証券売却益	134,494	293,739
特別利益合計	134,653	293,739
特別損失		
固定資産売却損	—	11,108
固定資産除却損	153	547
投資有価証券売却損	805	4,142
特別損失合計	959	15,799
税金等調整前四半期純利益	507,682	519,393
法人税、住民税及び事業税	256,298	231,536
法人税等調整額	△33,562	△31,375
法人税等合計	222,736	200,160
四半期純利益	284,945	319,232
親会社株主に帰属する四半期純利益	284,945	319,232

【四半期連結包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成27年3月1日 至平成27年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成28年3月1日 至平成28年5月31日)
四半期純利益	284,945	319,232
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△20,340	△153,577
退職給付に係る調整額	8,195	232
その他の包括利益合計	△12,145	△153,345
四半期包括利益	272,799	165,887
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	272,799	165,887

## 【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

(連結の範囲の重要な変更)

当第1四半期連結会計期間より、連結子会社であった有限会社ボンボンは連結子会社である株式会社メディケアサポートと合併したため、また、連結子会社であった株式会社YMCは連結子会社である株式会社ヘルスケア・キャピタルと合併したため、連結の範囲から除外しております。

また、新たに子会社となった大豊薬品株式会社を連結の範囲に含めております。

(会計方針の変更)

(企業結合に関する会計基準等の適用)

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日。以下「企業結合会計基準」という。)、 「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成25年9月13日。以下「連結会計基準」という。)及び「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成25年9月13日。以下「事業分離等会計基準」という。)等を、当第1四半期連結会計期間から適用し、支配が継続している場合の子会社に対する当社の持分変動による差額を資本剰余金として計上するとともに、取得関連費用を発生した連結会計年度の費用として計上する方法に変更いたしました。また、当第1四半期連結会計期間の期首以後実施される企業結合については、暫定的な会計処理の確定による取得原価の配分額の見直しを企業結合日の属する四半期連結会計期間の四半期連結財務諸表に反映させる方法に変更いたします。加えて、四半期純利益等の表示の変更及び少数株主持分から非支配株主持分への表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前第1四半期連結累計期間及び前連結会計年度については、四半期連結財務諸表及び連結財務諸表の組替えを行っております。

企業結合会計基準等の適用については、企業結合会計基準第58-2項(4)、連結会計基準第44-5項(4)及び事業分離等会計基準第57-4項(4)に定める経過的な取扱いに従っており、当第1四半期連結会計期間の期首時点から将来にわたって適用しております。

なお、当第1四半期連結累計期間において、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱いの適用)

法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第32号 平成28年6月17日)を当第1四半期連結会計期間に適用し、平成28年4月1日以後に取得した構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

なお、この変更による当第1四半期連結累計期間の損益への影響は軽微であります。

(四半期連結貸借対照表関係)

(偶発債務)

下記の団体の金融機関からの借入に対して、次のとおり債務保証を行っております。

	前連結会計年度 (平成28年2月29日)	当第1四半期連結会計期間 (平成28年5月31日)
医療法人財団 公仁会	14,924 千円	5,981 千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成27年3月1日 至 平成27年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成28年3月1日 至 平成28年5月31日)
減価償却費	147,544千円	145,155千円
のれんの償却額	30,551千円	31,987千円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自 平成27年3月1日 至 平成27年5月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年3月27日 取締役会	普通株式	71,853	37.50	平成27年2月28日	平成27年5月1日	利益剰余金

当第1四半期連結累計期間(自 平成28年3月1日 至 平成28年5月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年3月28日 取締役会	普通株式	68,978	36.00	平成28年2月29日	平成28年5月2日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 平成27年3月1日 至 平成27年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	調剤薬局 事業	ヘルスケア 事業	医薬品卸 事業	不動産事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	5,601,324	1,056,201	351,067	29,140	7,037,733	—	7,037,733
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	841	132,112	9,300	142,254	△142,254	—
計	5,601,324	1,057,042	483,180	38,440	7,179,988	△142,254	7,037,733
セグメント利益	442,790	31,749	18,662	14,982	508,185	△182,927	325,257

(注) 1 セグメント利益の調整額△182,927千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用196,467千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第1四半期連結累計期間(自 平成28年3月1日 至 平成28年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	調剤薬局 事業	ヘルスケア 事業	医薬品卸 事業	不動産事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	5,890,456	1,121,201	533,096	29,834	7,574,589	—	7,574,589
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	91	154,809	9,000	163,901	△163,901	—
計	5,890,456	1,121,293	687,906	38,834	7,738,490	△163,901	7,574,589
セグメント利益	370,320	52,930	23,052	13,931	460,234	△182,103	278,130

(注) 1 セグメント利益の調整額△182,103千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用195,697千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第1四半期連結累計期間 (自 平成27年3月1日 至 平成27年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成28年3月1日 至 平成28年5月31日)
1株当たり四半期純利益金額	148円71銭	166円60銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	284,945	319,232
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(千円)	284,945	319,232
普通株式の期中平均株式数(株)	1,916,083	1,916,083

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。



## 2 【その他】

平成28年3月28日開催の取締役会において、平成28年2月29日の株主名簿に記録された株主に対し、次のとおり期末配当を行うことを決議いたしました。

① 配当金の総額	68,978千円
② 1株当たりの金額	36円00銭
③ 支払請求権の効力発生日及び支払開始日	平成28年5月2日

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

# 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成28年 7月13日

株式会社メディカルー光  
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 原 田 誠 司 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 浅 井 明 紀 子 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社メディカルー光の平成28年3月1日から平成29年2月28日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間(平成28年3月1日から平成28年5月31日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成28年3月1日から平成28年5月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

## 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

## 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

## 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社メディカルー光及び連結子会社の平成28年5月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

## 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。  
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。